

飯香岡八幡宮の文化財

飯香岡八幡宮宝蔵庫

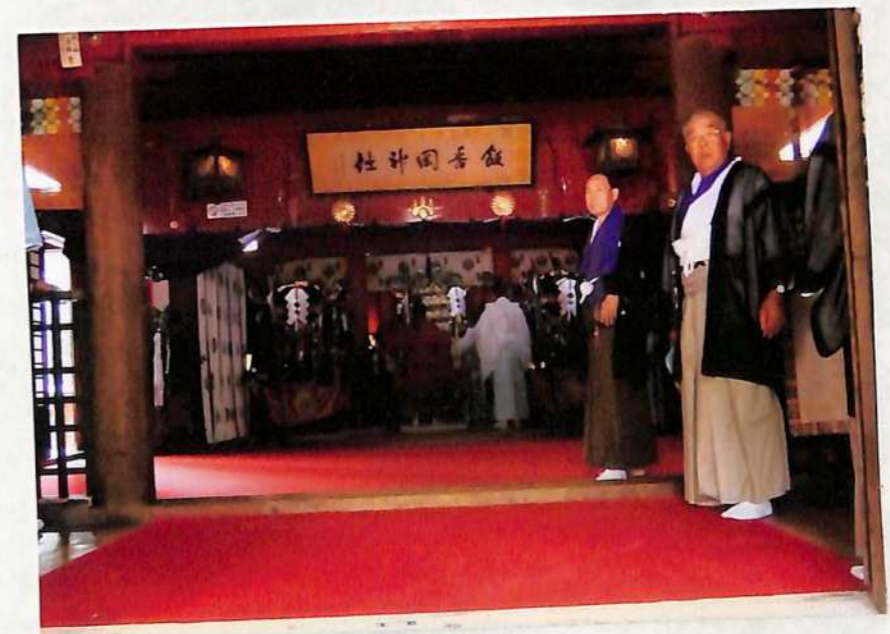
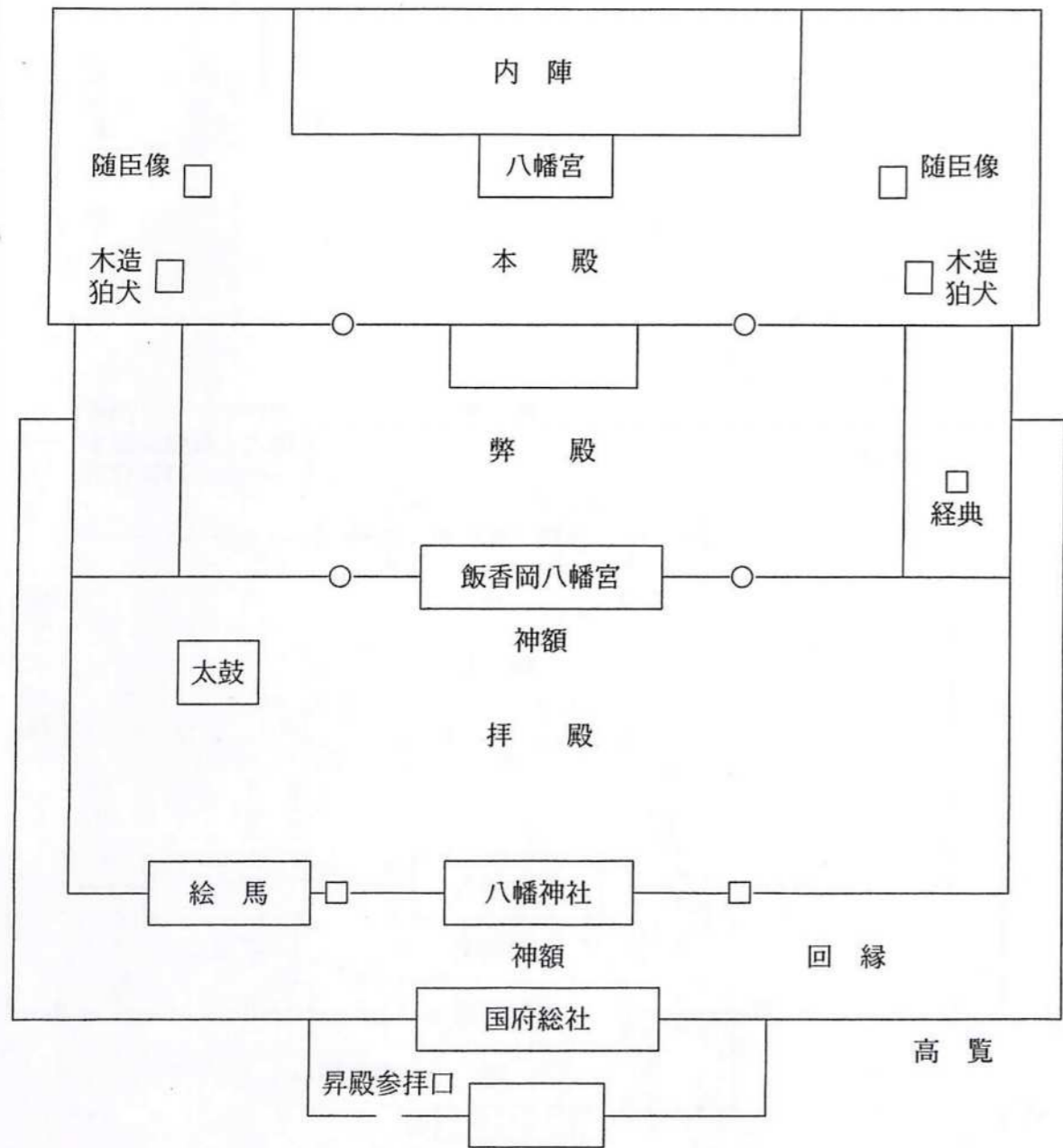
平成22年7月作成
平成23年5月改定

八幡名所百選チーム

八幡名所 100 選チーム

平成23年







本殿全景



随犬あ行



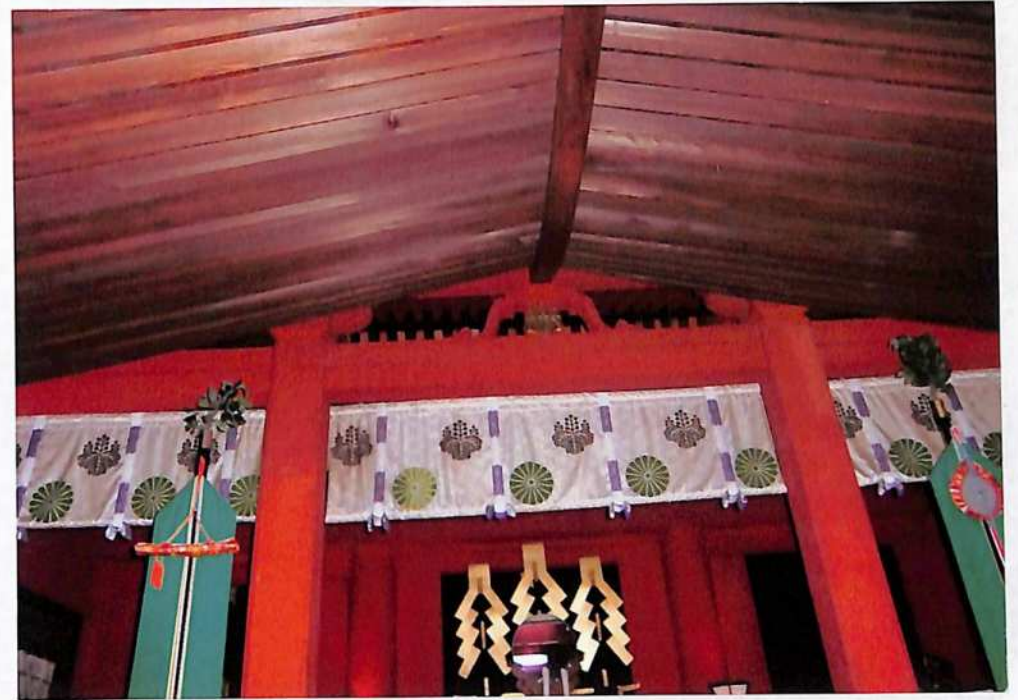
随犬うん行
(貞享3年5月、寄進者
八幡郷住人田中佐助、
勢州安濃郡津八幡町住人川口助兵衛)



随臣像左大臣



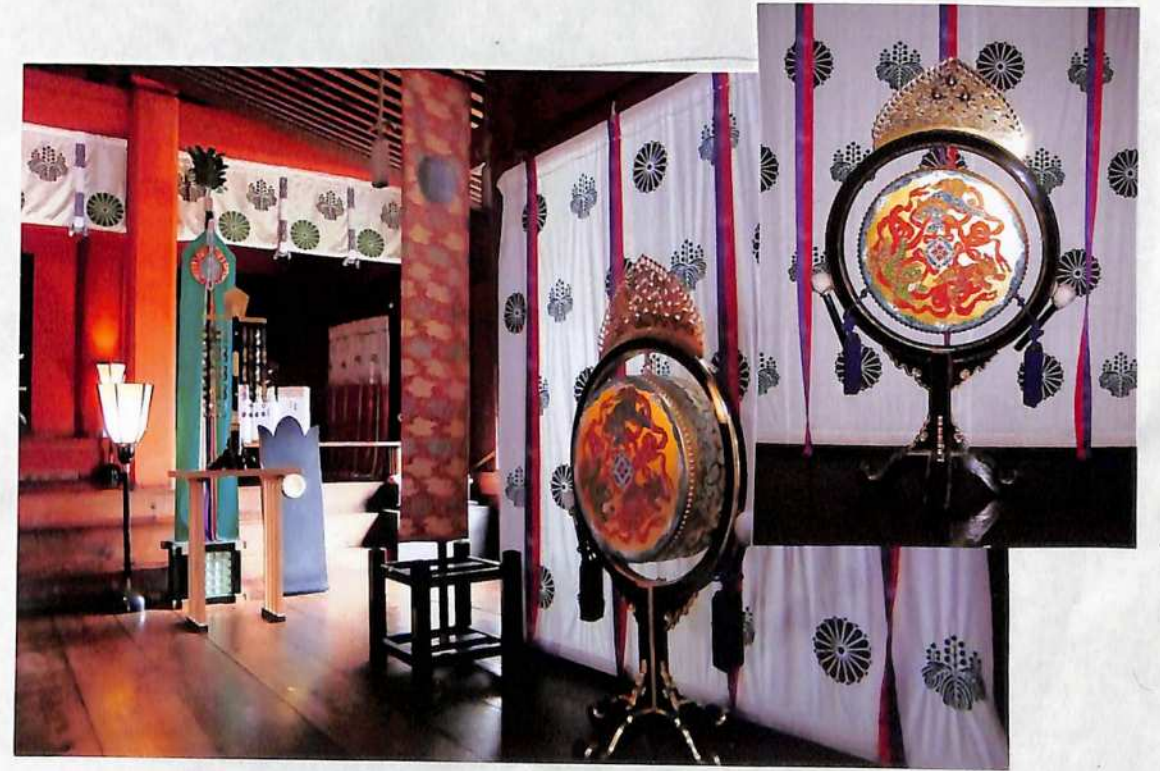
随臣像右大臣



柳楯



八幡宮 豊蔵坊孝雄筆
裏書=奉寄進永井氏直頼
発頭神主姓市川氏誉田齊藤原好房
寛文四年甲辰四月ほか





国府總社、^誠鐵道會員捧献



銅製擬宝珠（4こ）=慶応三丁卯年、八月吉祥日、八幡宮宝前、上総国市原庄、八幡郷、神主市川伊賀亮藤信明、行司山下左近正源常吉、同市川大和正藤常忠



經典、南氏寄進「大般若經600卷」など



飯香岡八幡宮、海舟勝安房拜書
奉納石川石三



八幡神社、春洞西川讓拜書
維時明治二十年一月拜献、八幡町川上規矩

本堂左壁面 神田よ組奉納額

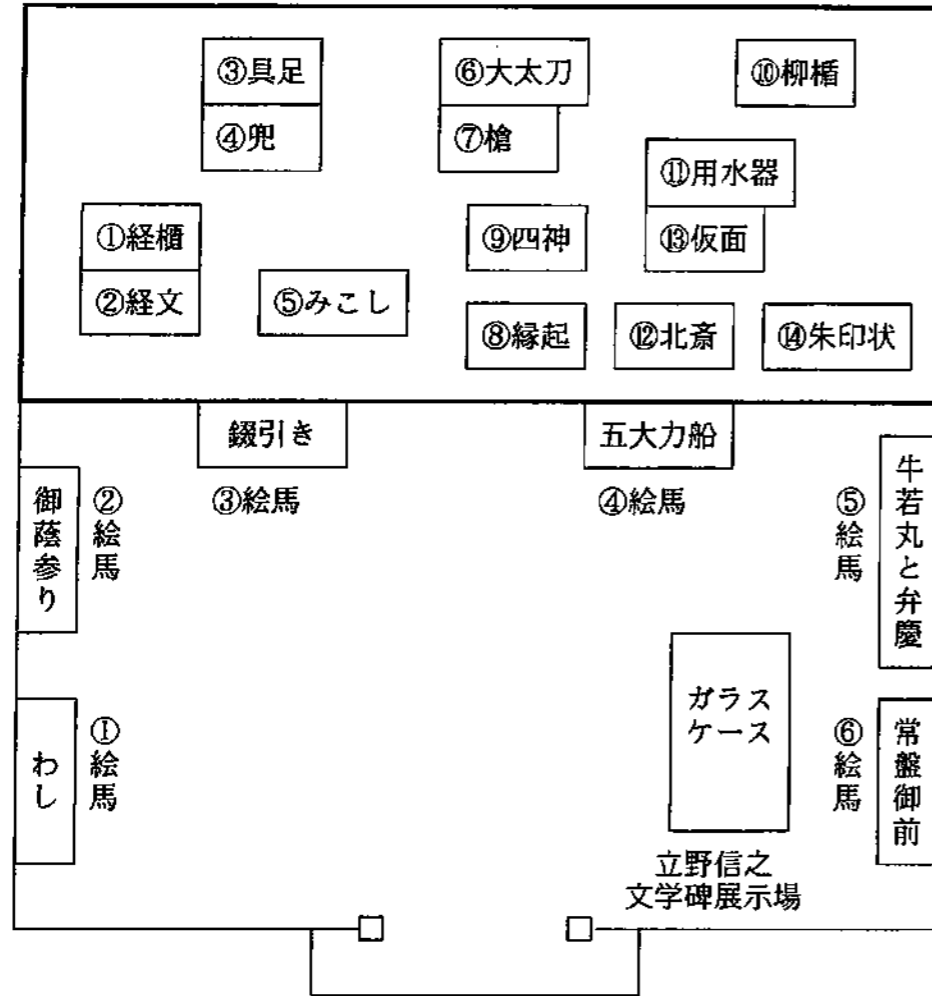
- * 中央額
飯ヶ岡八幡宮、世話人、須田町、通新石町、乗物町、岩本六
発起人、かじ一丁、藤森善太郎
- * 外枠 大正八年九月の納め、(太田) 櫛朝書
- * 右1段目枠
(第一区一番組) 柏屋、美土四、紺三、連雀町、九軒町、かじ二、新きじ、蠟関治口、
三河四、新連清、(二番組) 瀬戸物町、十軒店、駿河町、長浜町、釘店三、釘店保、
(三番組) 新右エ門町、元大工町せい、材一金、樽正町、下楨町
- * 左1段目枠
(四番組) 五良兵エ町、南傳三、豊町宗太、有一梅、(五番組) かが栄、ヌキ四濱、
銀二豆福、志婦清新肴町、かが常、西町正、竹川惣、(六番組) 十町目、新栄黒、
月三市、つき一常、木五赤、(七番組) 豊嶋町、政右エ門、富松町、通塩町庄治、
(八番組) 小舟町
- * 右2段目枠
富澤町、長谷川町、蛸一留、山兼、平徳、纏繁、(九番組) 亀嶋町、五丁目文、三代町、
兜町和、(十番組) 三木屋、大川端、越前堀國、箱二、長二重、
(第二区一番組) 田村町春松、(第三区二番組) 五丁目、(三番組) 新二勘、
(五番組) 砂土原、永楽家、肴町寅
- * 左2段目枠
(七番組) 榎町金、山吹町、(第四区一番組) 下三組町、(二番組) 大塚甚、
(四番組) 水道町、赤城下栄、江戸川常、(五番組) 猿二八十、淡二亀、同朋金、
三崎町、(第五区一番組) 坂倉、(二番組) 大門町、(三番組) 瓦町、田二口、今戸、
日乃家、(第六区一番組) 弁一為、(三番組) 東元竹、(品川の纏) 阿喜本、
(無印) 横浜池田
- * 右3段目枠
(第一区一番組) 下町政、小柳町、紺一国、元岩瀧、瀧関治、富山町、新滝、代地金、
美倉町、九軒町内栄太郎、纏直、階子宗、階子玉、(二番組) 朝次郎
近藤茂、紋国、左山、神輿屋村地、京源、小林、てう金
- * 左3段目枠
今川橋松屋呉服店、横浜鶴屋呉服店、神田安田、神田大勇、神田銅寅、神田左官前田、
赤坂建鉄、神田石興、神田経口、神田尾民、下渋谷集花園、神田二次郎、神田豊伊、
神田稲富神田家根口、青柳長吉、亀屋糸店、近江屋、貸席山之恵、石川鉄屋、
い口津自働車店
- * 右4段目枠
黒崎、中村、巳し塚、さがみや、鋼豊、金田、岩本町紋国、平山、吉田、梅田屋、鈴丑、
鷹金、大平、宮惣、纏屋、大藤正、大久、浅田飴、神田男寅、吉、三
- * 左4段目枠
乗物内赤、坂倉内亀次郎、本銀四藤銀、本銀七中田、神田植田、神田矢部、神田戸塚、
神田口江伊助、神田いく稲、神田かし町大政、神田左源、石塚京房、今川橋三兵、
神田竹内左金、神田前田工務所、関谷今川橋弥兵衛、東紺小松屋、東神田左恒、
東神田栗原、千葉菊寿、深川松田幸助
参考資料=飯ヶ岡八幡宮神田よ組発起の額(大正8年)、平成24年、一般社団法人
江戸消防記念会史跡調査員高橋久雄



源為朝鬼が島

文化四年(1807)三月朔日
法橋秋月改め雪山堤等琳、奉納小玉町鈴木太右衛門
説明=源為朝の画、堤等琳筆、奉納小玉町鈴木太右衛門

ショーケース展示品



①経櫃 (きょうびつ)

説明=経櫃 天文年間(1532)

生実御所足利義明公一門が家運繁栄を祈り、足利庄小曾根の住・南氏が大般若経六百巻を二合の経櫃に納めて奉納された内の一である。蓋は後補

②春日版大般若経

説明=春日版大般若経 天文年間(1532)

経文の奥書・紙背等に義明公、また高基公の家門繁栄のため南氏が寄進されたことが墨書されている。

③室町、桃山時代具足

説明=市原市文化財 紺糸素懸威二枚胴具足 桃山時代

伊予札紺糸素懸威二枚胴具足 室町時代

本宮には室町頼桃山、江戸初期にいたる具足が十一領ある。東国に於ける本宮の歴史と風俗史上からみても貴重な遺品である。

④兜

⑤至徳元年銘みこし

説明=千葉県有形文化財 神輿 室町前期(1384)

至徳元年九月足利義満公は本宮に神輿四基を奉納された。

照り起り屋根、面取り角柱、板玉垣、格狭間、蛙股、垂木などに室町前期の特徴を伝えている。

⑥徳川家康銘大太刀

説明=市原市文化財 大太刀

天正二十年(1592)徳川家康の武運長久を祈り本多弥八郎正綱が奉納されたもの。全長一・六三米(メートル)

さや説明=御神刀一振、四尺三寸、正綱の【以下判読不能】

⑦槍

説明=奉納、陸奥守包保作、寛文年間(1661~1672)

⑧光善寺薬師如来縁起

説明=市原村光善寺薬師如来縁起に柳楯神事の起源が誌されている。原文虫書により元禄十三年に法印秀海により書き写せられたものである。

⑨四神

説明=大祭のとき四神旗の上端にとりつけられた

青龍(せいりゅう)、朱雀(すざく)、白虎(びゃっこ)、玄武(げんぶ)

⑩柳楯

説明=千葉県無形民俗文化財 市原の柳楯神事 柳楯

神輿以前の祭りの形態を伝えたものと云われている。

写真=柳楯の調製、柳楯の巡行2点

⑪神饌品用水器、古壺

説明=神饌品用水器、古壺

⑫北斎漫画 上総八幡の銀杏

⑬仮面（おみな、おに、おきな）

説明＝本宮の祭儀に使用されたもの、寛文十年（1670）に奉納されたもので
天下一若狭守の焼印が裏面にみえる

⑭寄進状写し、寄進状箱

御朱印八幡宮領 上総国市原郡八幡郷
寄進 八幡宮

上総国市原郡八幡郷の内 百五十石の事
右、先規のごとくこれを寄付せしめ訖（おわんぬ）、この旨を守り
いよいよ武運長久の精誠に抽（ぬきんで）、ことに
祭祀（さいし）を専（もっぱら）にすべきの状、くだんのごとし。
御書判

天正十九年辛卯十一月日 大納言源朝臣判

説明＝寄進状写し

松平家忠日記によれば天正十九年十一月（1591）徳川家康公は直筆の
寄進状を以って本宮の社領百五十石を安堵した。
現物は明治にいたり新政府に回収された。

小型ショーケース「立野信之先生文学碑竣工記念展示場」

立野信之先生関係資料（写真、著作品、関係資料、竣工記念式典写真など）

説明＝立野信之（1903～1971）は市原市平田（旧五井町）の出身にして、
昭和二十七年、小説「叛乱」によって直木賞を受賞、またペンクラブの幹事
長、副会長となり、時の川端康成会長を補佐して文学の国際交流に多大なる
功績を上げた。彼は青春時代の一時を、この地の旧南総中学校に学び、好ん
散策の歩を運ばれたのがこの境内であった。自伝的小説「流れ」には境内の
滝の辺りで初恋の人青山静子と青春の交際を深めてゆく様が描かれ、彼にと
って思い出の地であるため、昭和五十二年五月一碑「流れ」の一節を刻んだ
文学碑が建立された。代表作に「明治大帝」「流れ」「太陽はまた昇る」
「公爵近衛文麿」などがある。

その他の展示品

- ①境内図
- ②明治中期千葉県博覧図 飯香岡八幡宮、八幡尋常小学校、市川本店、村市
- ③年号無記（鎌倉時代）長崎高資書状写真
- ④発掘された古道跡、昔の鳥居周辺写真
- ⑤条里制跡を示す古絵図
- ⑥昭和48年境内航空写真
- ⑦昭和10年代の社頭、奉納小樽市山下清、画溝淵健爾



欠落 (柳屋カ)

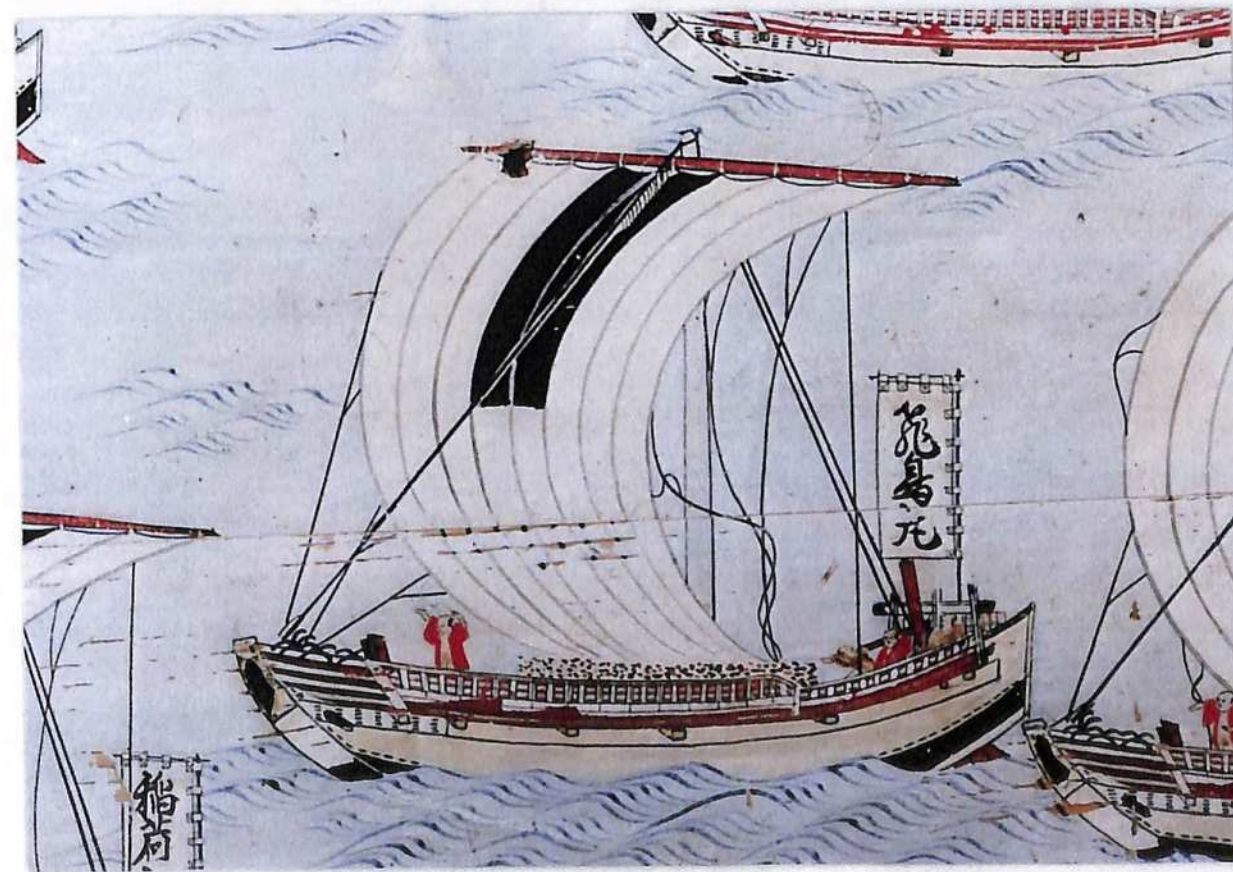


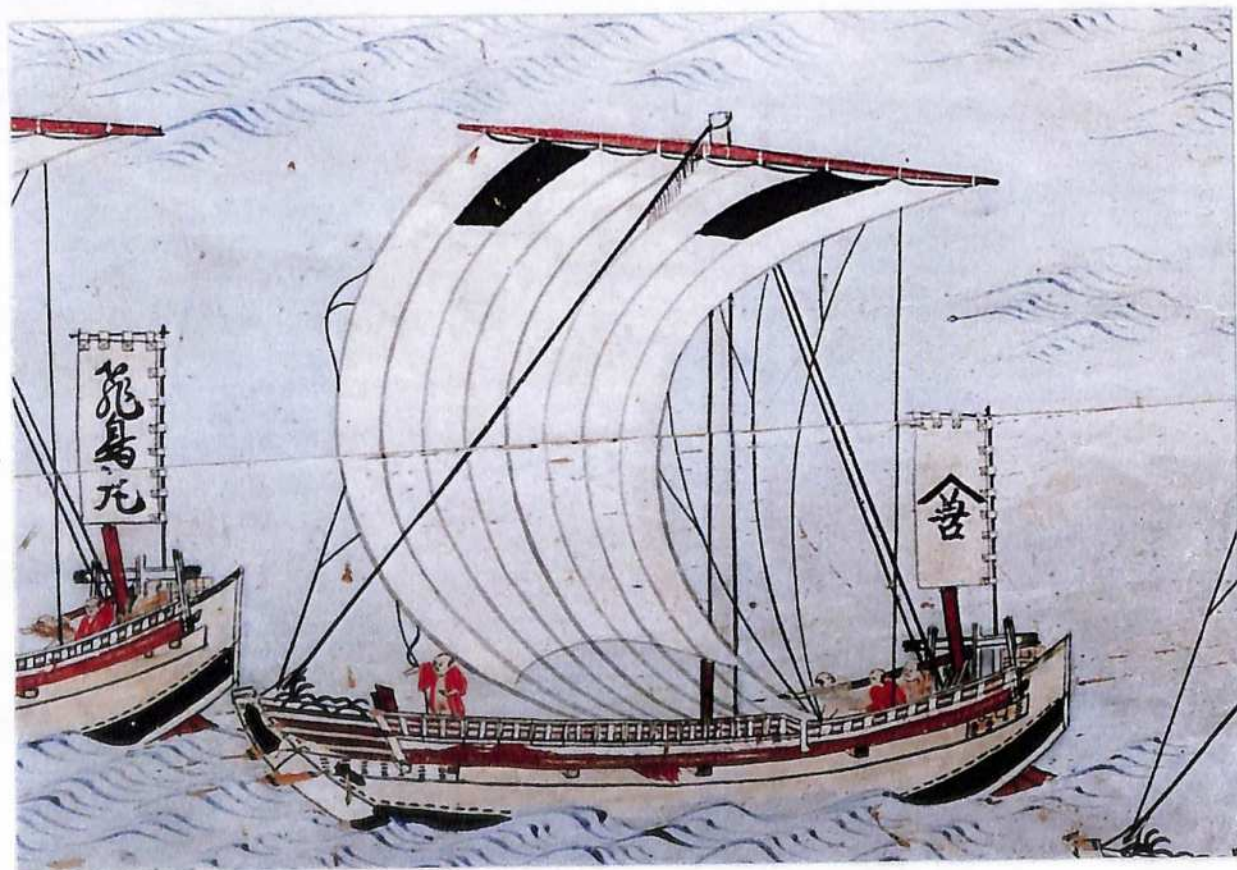
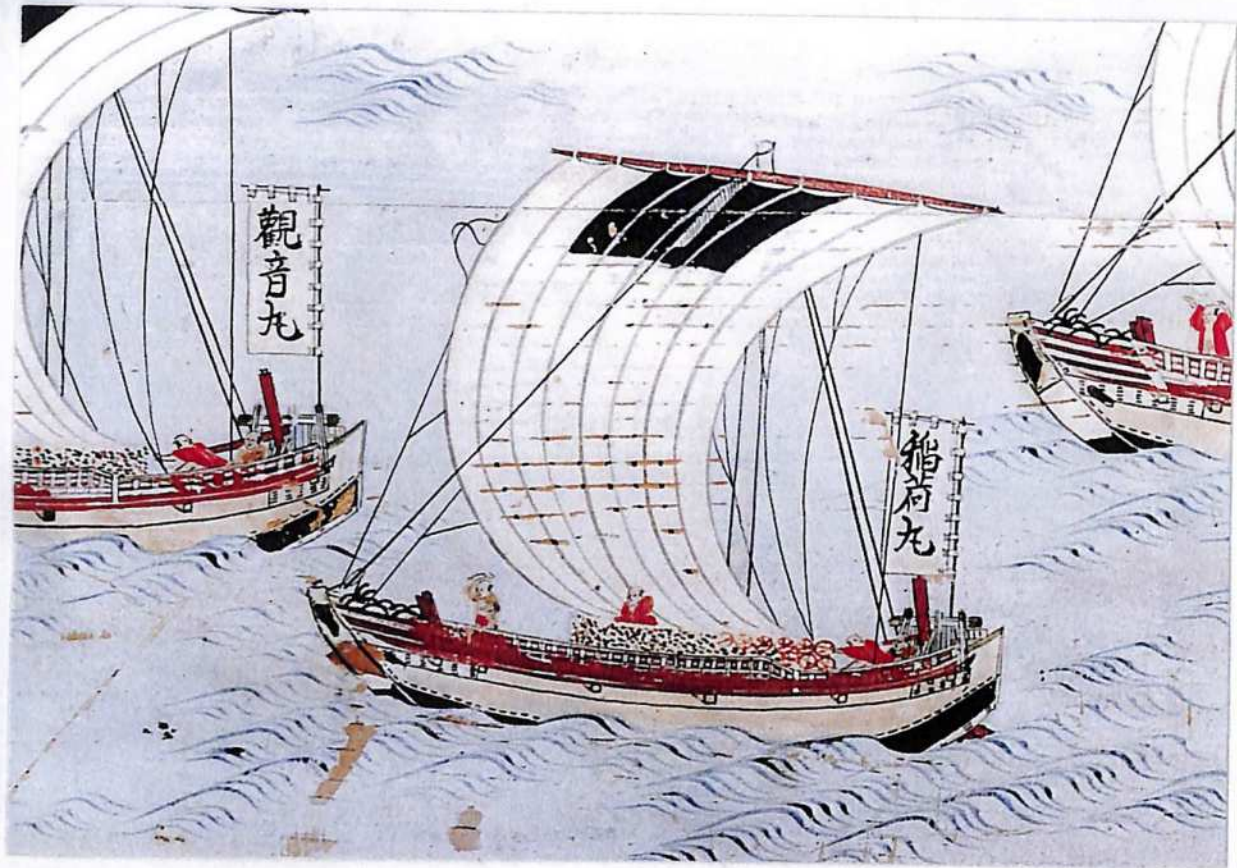


八幡村五大力船

寛政六甲寅（1857）三月十五日
 奉納、海上安全、上総国八幡村五大力船江戸問屋角屋十兵衛仲冬木源左衛門
 説明=五大力船勢揃い、寛政六甲寅三月十五日、筆者判読不能
 八幡宮春祭に八幡浦に勢揃いをして奉祝すると共に海上安全を祈った

初代 登亭北舟画





近江八景、瀬田の唐橋

文政十三寅（1830）八月十五日
 奉納、堤栄川、南町岩松、石太郎、幸次郎、佐吉、助次郎、伊勢松、次郎吉、
 磯五郎、新田町八十八、桑五郎、長次郎、片町松次郎
 説明=お蔭参り（お伊勢参り）、筆者堤栄川、製作期文政十三寅八月十五日
 お伊勢参りの同勢の道中の行動を画いたもので旅中安全に帰郷した報賽
 として奉納したもの 奉納者（同文省略）



牛若丸と弁慶

文化元子年（1857）七月
 奉納御神前、秋月門人、堤秋泉
 治郎吉、卯之介、石松、七太郎、辰五郎、吉次郎、松治郎、弥惣治、半蔵、
 徳治郎、久次郎、巳之蔵、蔵治郎、安治郎、金五郎、勝三郎、□蔵、
 辰之介、辰五郎、□平 二十一人
 説明=牛若丸と弁慶、筆者秋月門人堤秋泉、製作期文化元子年七月
 奉納者前（同文省略）



2010/03/15

曾我物語朝比奈草摺引き

享和二壬戌年（1802）十一月吉日
 江戸新□□寺本茂十郎、伊藤藤兵衛、等舟筆
 説明=鍛引（しころびき）、等舟筆、享和二壬戌年十一月吉日
 江戸寺本茂十郎、伊藤藤兵衛



常盤御前親子都落ち

安政四丁巳（1857）孟夏応需
 奉納、南町、市川大助、探秀藤原守雄
 説明＝常盤御前、探秀藤原守雄筆、今若、乙若、牛若
 安政四丁巳孟夏応需、奉納 南町市川大助

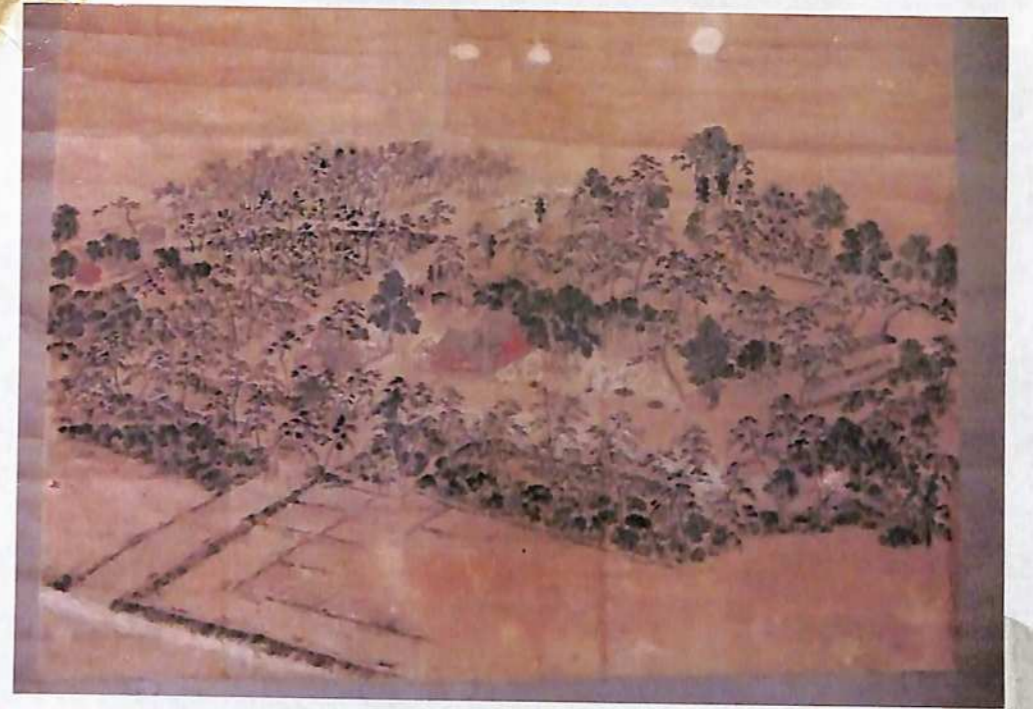


鷲（わし）

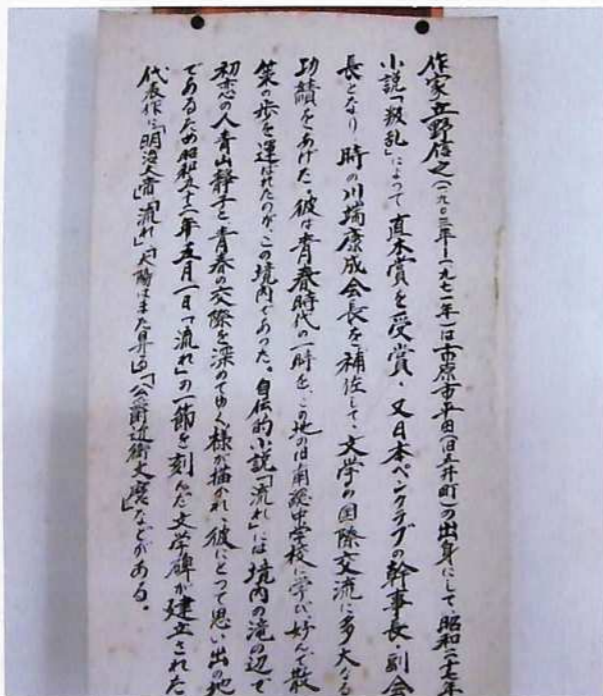
天保二卯（1831）七月吉日
 奉納、堤等栄筆、八幡様
 説明＝鷲、天保二卯七月吉日
 裏書、阿部山城守領分、八給内惣代名主平兵衛、
 河野権右衛門知行所、同名主卯兵衛



立野信之文学碑展示場



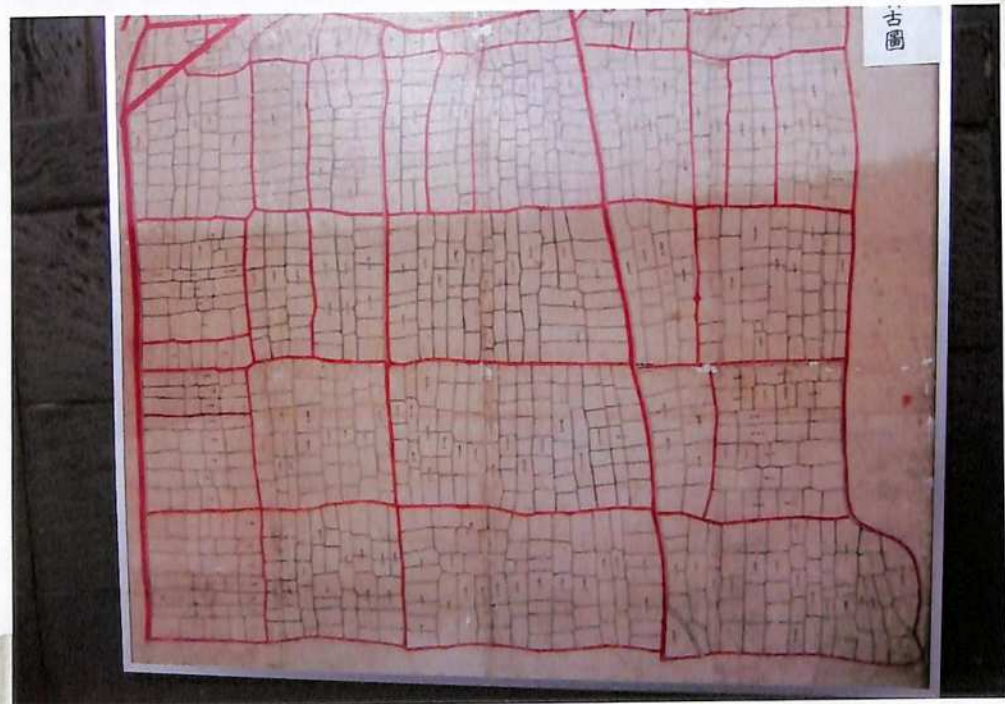
明治時代の境内図



昭和10年代の社頭、奉納小樽市山下清、画溝淵健爾



条里制跡を示す古絵図



20



発掘された古道跡、昔の鳥居

A グループ
 八幡海岸や海を描いたもの



上総名所八幡神社
 明治十九年（1886）旧二月十八日
 上総名所八幡神社
 上総国市原郡五所金杉邨
 願主、関本伊口



難風の中を突き進む五大力船
 明治三十六年（1903）五月二十九日
 当所、浜本町、舟主、根本吉太郎
 同悴磯次郎、斉藤安太郎



八幡海岸五大力船と蒸気船
(明治中期)



八幡海岸五大力船と蒸気船
明治二十四年(1891)九月
北島豊吉

B グループ
参詣など各地の風景を描いたもの



瀬田の唐橋

天保二辛卯歳(1831)秋八月吉日
奉揚御宝前、堤栄川画
浜本町、片町、国太郎、丑太郎、
勘六、吉太郎、□(俣カ)太郎、
源次郎、吉太郎、文吉、敬白



江の島参詣
 (明治中期)
 八幡、□□由登、願主山中□□



江の島参詣
 (明治中期)
 文字=土屋勘三郎



紀州藤代峠
 明治二十四年(1891)九月 [判読不能]
 五井平田村、三枝 [判読不能]、



琵琶湖カ
 (明治ころ)
 五所、木口



今戸

明治十八年（1885）九月三十日
 奉献、今戸
 当所南町住、川島辰五郎



伊勢神宮と金比羅参詣

（江戸後期ころ）
 北【判読不能】、同行【判読不能】



源頼朝の富士巻刈り

文化十一戊歳（1814）□月十五日
 奉叙

Cグループ
 武者や物語、伝承を描いたもの



源義家と阿部貞任の問答

明治十七年（1884）甲申三月吉日
奉納、心願成就、当宿今井惣平



藤原秀郷のむかで退治

明治十五年（1882）七月
浜本町、仲町 [判読不能]（堤等国）



佐藤忠信と覚範

（年代不詳）
片町鞍屋忠五郎、昇亭北寿



すさのおの尊の大蛇退治

明治十三年（1880）七月吉日
納 [判読不能]

11



画題不詳
(明治時代ころ)
奉納

112

12



山
大正四年(1915)九月二十一日
八幡町、きよ 奉納

20



三国志人物
文政二己卯年(1819)
本町 伴蔵、□□郎、勘ノ助、徳太郎、留五郎
仲町 栄太郎、栄蔵 片町、寅松、初五郎、慶次郎

110

13

D グループ
信仰を描いたもの



神功皇后と竹内宿禰の凱旋

明治十六癸未年（1883）八月
奉納、出羽神社参詣同行
鈴木口助、堀口源治郎、市川重五郎、
寺嶋又口郎、小川口吉、佐倉徳治郎、
松田伊之吉、山中巳之蔵、東野典太郎、
中島長吉、吉田政吉、伊藤吉太郎、関七五郎

120

04



20

神功皇后と竹内宿禰の凱旋

明治二十四年（1891）四月二十三日
浅野正蔵



母子御幣礼拝

明治十七年（1884）八月十五日
奉納、[判読不能]

19



女衆御幣礼拝

明治二十二年（1889）十月二十二日
 奉献、心願成就、八幡本町九人
 明治二十二年十月二十二日



八幡神親子礼拝

安政二年（1855）卯□月吉日
 □（広カ）瀬正蔵

26

E グループ

その他

F グループ

小絵馬



元帥と捧げ筒

明治三十六年（1903）一月一日
 奉納、八幡、陸軍兵士、中島彦八

20

17

120



小絵馬合わせ額

この絵馬は昭和四十二年重要文化財飯香岡八幡宮本殿解体復元工事着工中、屋根の補板を剥した中に混入されていたもので、この外多数の残片が発見された。
 このようなことは信仰上の理由による口か否かは不詳であるが、珍奇なことである。
 絵馬は上段右は享保三年小出氏、中央には寛延二年二月十五日丸氏、中段の中央には渡辺氏などの墨書がみえる。
 平成四年九月 宮司市川教生



26

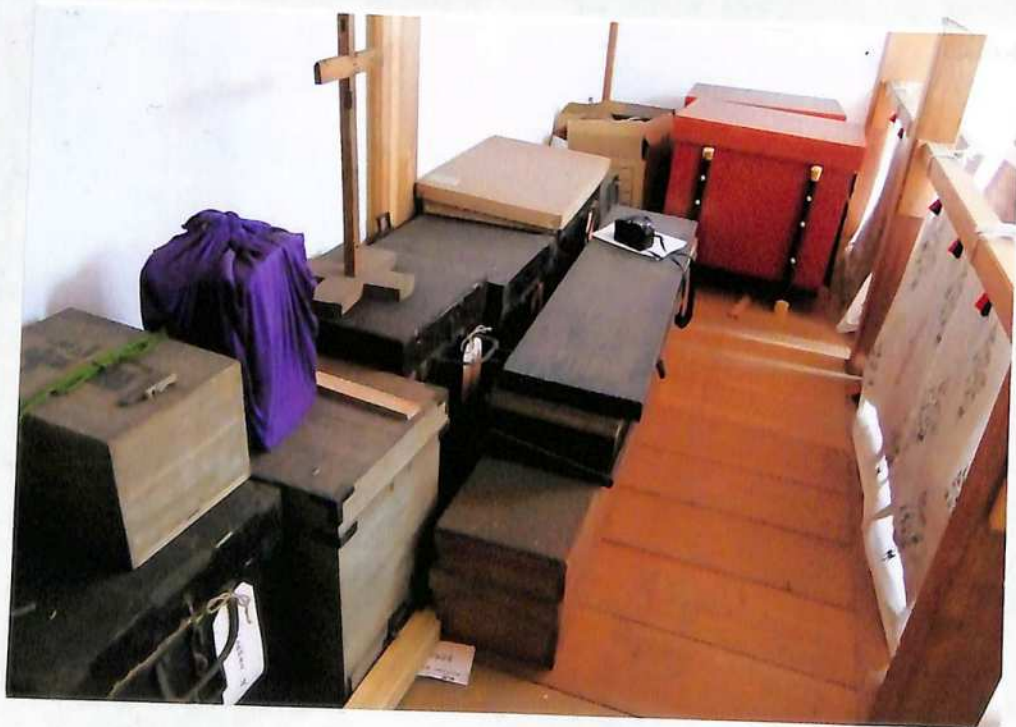
18





参考記録 (2階収蔵額)
 ①公民館表彰、館長御拝謁祝賀記念句会、泉吟社、昭和二十四年十一月五日、於公民館
 ②無題 (句会) 昭和二十五年三月十五日



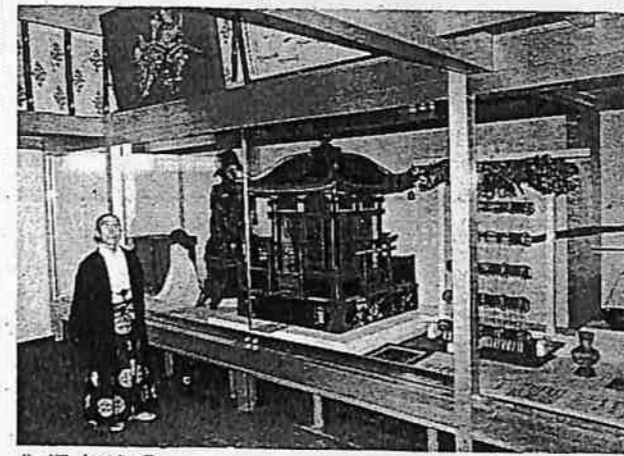


貴重な宝物 傷みなく後世に

神社所有の収蔵庫完成

市原・飯香岡八幡宮

神輿、よろいなど文化財の収蔵品と市川宮司



神社に所蔵されている宝物などを一方所に収蔵する県内では珍しい神社所有の「博物館」的な収蔵庫が市原市八幡の飯香岡八幡宮(市川教生宮司)の境内に、このほど完成した。県文化財の柳盾神事、市文化財の太刀、神輿(みこし)など価値のある品々が収められている。これらの収蔵品はあす十五日午後、同八幡宮の春の大祭で一般公開される。

あす、春の例大祭で 竣工式と一般公開

飯香岡八幡宮は、市原市内の古社の一つ。白鳳年間の創建で上総国の総社だった由緒ある神社。本殿は室町時代末期の特色を示し、国の重要文化財、拝殿は県文化財の指定

を受けている。神社に伝わる宝物はいろいろで、多くが文化財指定を受けている。神社の建物ほかに、県無形民俗文化財の約六百年の伝統を誇る特殊神事の「柳盾神事」、市文化財の徳川家康の武運長久を祈って天正年間(一五九二)に寄進された太刀、室町中期の神輿四基、寄附から江戸時代初期にかけてのよろい、かぶと、具足十一頭(セツト)、江戸時代の絵師の絵師北斎が筆法を学んだ塚家の絵師が描いた二百年前の大絵馬二十枚など。そのほか境内の県天然記念物の夫婦イチョウなど歴史と伝統を伝えている。収蔵庫の建設は、こうした貴重な所蔵品を後世に傷みも少なく残そうと二年前に建設が計画された。市川宮司によ

市原市八幡の飯香岡八幡宮

4神輿は室町中期の作

関係者の調査で判明



市原市八幡の飯香岡八幡宮(市川教生宮司)に収蔵されていた神輿(みこし)四基が、二十四日までに文化財関係者の調査で室町時代中期のものとなった。同市教委では、既に同市文化財審議委員会海上信入会長)でも調査を終えているところから、正

国の「重文」クラス! 市は文化財指定、復元へ

式指定を急ぎ六十三年度中に市の重要文化財に指定、復元を図っていく方針。同みこしは、当時の建築様式が取り入れられていることから、「国の重要文化財に指定されるのは間違いない」とする文化財関係者の声も高い。

しに至徳元年(一三三八年)に源朝臣義綱が鎌倉法華堂に中小路で造営し寄進した、と天井墨書が発見された。また、室町時代の建築様式の特徴であるみこし屋根のこう配がゆるやかな点と、端垣(みすき)の模様や鳥居の形が鎌倉から室町時代のものであることが認められた。

さらに四ノ宮みこしの懸宝珠(まぼし)裏には寛安二年(一六四九年)に再修理、宝曆九年(一七六七年)に再々修理をしたとの墨書も発見された。

三月定例市議会で、地元(石井一男議員(自民)の質問に対し、星野一市教育長は、「神仏伝交のみこしが四基も保存されていたのは全国的にも珍しいといわれる。早速、本格調査に取りかかり、復元保存していきたい。また、重要文化財指定問題にも取り組んでいく」と答弁した。また、今月二日にみこしを複製した海上信長も「市文化財に指定する計画は十分でそれ以

飯香岡八幡宮で本格調査を持つ貴重な室町時代のみこし

11領ほぼ完全に保存

市原・飯香岡八幡宮 具足調査始まる

製作年代は室町〜江戸初期



市原市八幡の飯香岡八幡宮（市川教生宮司）で昨年三月、戦国時代の甲冑（かっちゅう）が多数発見され、文化財関係者の注目を集めていたが、二十日から二十三日までの三日間の日程で同市教委文化課は同神社所蔵当世具足調査に乗り出した。

調査には東京・渋谷の刀剣博物館の鈴木友也専務理事が当たり、奥（うしろ）兜（かぶと）かす（かぶ）を調査対象とする。一丁（いちぢょう）の甲冑（かっちゅう）を調査している。同市教委では、調査結果をもとに「甲冑を鑑定する鈴木専務理事（右側）」

とに同市文化財審議委員会（海上保久会長）に指定文化財として諮問したい考え。

鎌倉の鶴岡八幡宮の兄弟社として知られる同神社の本殿で、兜（かぶと）が見つかったのは昨年三月下旬。市川宮司が本殿の片隅に置かれていた桐箱を開け発見した。同じ時期に室町時代中期の神輿（みこし）も見つかり、神輿は昨年八月に同市文化財に指定された。

今回の具足調査では、十一領（せつ）（セット）がほぼ完全形で保存されていることが確認され、製作時代も室町〜桃山〜江戸初期の物であることが

分かった。正装（せいざう）と書われるが、より正確な製作当時の年代を伝えるものもある。また桐箱の一つには「又治五年西八月十五日」（右大臣源朝臣御進）という墨書も見つかっている。

鑑定に当たっている鈴木さんは「これだけ数がまとまって残っているというところが大きな意義です。やはり神社だから残ったのでしょう」と話した。だが同神社に寄進したのかについては、「この周辺には原本領が多かったという点なので、原本諸侯が武運長久を願って寄進したのかもしれない」と推定している。



【飯香岡八幡宮本殿から発見された戦国時代の具足（兜）を手にする市川教生宮司】

今度は戦国時代の甲冑

市原市で「重文」クラスか

日本最古の「王國」銘鉄剣の歴史的発見にわく市原市で、今度は戦国時代の武士が着用した甲冑（かっちゅう）が、奥（うしろ）兜（かぶと）が二十一日までに多数発見され、文化財関係者の注

目を集めている。鎌倉幕創期の甲冑もほぼ完全形で見つかり、鑑定結果によれば国の重要文化財クラス（重要文化財）という声も高い（関連記事11面）。甲冑が発見されたのは、同市八幡の飯香岡八幡宮（市川教生宮司）。同神社の社伝によると、創祀（こうし）は天武天皇の白鳳四年（六七〇）で、東北にゆかりの深い武門武将の厚い崇敬を集めた、といわれる。現在の本殿は、室町時代中期の建立で、その入母屋造りは国指定の重要文化財。

甲冑は、本殿に奉納されていた桐箱から発見された。文化財関係者の調べで、鎌倉時代から室町時代にかけての甲冑十一領が確認された。もちろん、戦国時代の具（ぐ）

兜（かぶと）がどのよう多数発見つかったのは、全国でもあまり類例がないという。同神社から報告を受けた同市教委では、先の「王國」銘鉄剣に続く貴重な文化財として、今後、専門家に調査を依頼して上秘の国に格上げする中世の史実を探っていく方針。

＜星野一郎・市教育長の話＞飯香岡八幡宮に甲冑があるという話は聞いていたが、貴重な掘り出しもので市原市にとってはありがたいことだ。早速本格調査させ、できれば保存措置を図りたい。

飯香岡八幡宮

